



2023年3月期第3四半期

決算説明補足資料

2023年2月10日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



四半期決算概要

売上高：8,796百万円 営業利益：2,327百万円

事業状況

国際通信事業においてC2C回線などの提供が順調に進捗し、
メディカル&ヘルスケア事業においてもレーシック施術が
増加するなど、好調に推移。

フィリピン通信事業では、事業拡大のための先行投資を実施。

今期業績予想

売上高：12,000百万円 営業利益：3,300百万円

※変更なし

経常利益などは第3四半期の円高の影響により下方修正

1 | 2023年3月期第3四半期 決算概要

【2023年3月期第3四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	第3四半期				第3四半期累計			
	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	%	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	%
売上高	2,349	3,012	663	28.3%	6,425	8,796	2,370	36.9%
営業利益	595	690	95	16.0%	1,423	2,327	903	63.4%
経常利益	659	▲ 65	▲ 724	▲ 109.9%	1,480	2,307	826	55.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	436	▲ 103	▲ 539	▲ 123.6%	954	1,556	602	63.1%

2023年3月期第3四半期連結累計期間 実績分析

- 売上高：国際通信事業においてC2C回線のIRU契約案件の収益計上などにより大幅に増収となり、メディカル&ヘルスケア事業においてレーシック件数が増加したことから、前年同期比36.9%の増加。
- 営業利益：国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が増益になったことにより、前年同期比63.4%の増加。
- 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益：
営業利益の増加により増益となるものの、急激な円高の進行などにより第2四半期に計上した為替差益740百万円が為替差損4百万円となり、第2四半期に比べ前年同期比の増益率が低下。

■ 国際通信事業（海外通信事業）

	2022/3	3Q累計	2023/3	3Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	1,729		3,567		1,838 (+106.3%)	
営業利益	370		1,143		772 (+208.6%)	
営業利益率	21.4%		32.0%		—	

国際通信回線の提供が順調に拡大し、C2C回線のIRU契約案件の収益計上の増加により、大幅に増収増益となる。

■ フィリピン通信事業（フィリピン国内通信事業）

	2022/3	3Q累計	2023/3	3Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	881		757		▲124 (▲14.1%)	
営業利益	240		165		▲75 (▲31.4%)	
営業利益率	27.3%		21.8%		—	

フィリピン国内回線網の整備や法人向けインターネット接続サービスの新規契約獲得のための営業員の増強などの先行投資の増加により減収減益となる。

■ 国内通信事業

	2022/3	3Q累計	2023/3	3Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	2,961		3,177		215 (+7.3%)	
営業利益	567		624		57 (+10.0%)	
営業利益率	19.2%		19.7%		-	

2022年7月1日に新設分割により、株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立。
AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンター向けサービスが引き続き好調に推移し、増収増益となる。

■ メディカル&ヘルスケア事業（医療・美容事業）

	2022/3	3Q累計	2023/3	3Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	831		1,270		438 (+52.7%)	
営業利益	256		453		197 (+77.0%)	
営業利益率	30.8%		35.7%		-	

ボニファシオグローバルシティに開設した第3院を中心にレーシックの提供が引き続き拡大し、増収・増益となる。さらなる事業拡大のため、オルティガス院の拡張工事を実施。

■その他

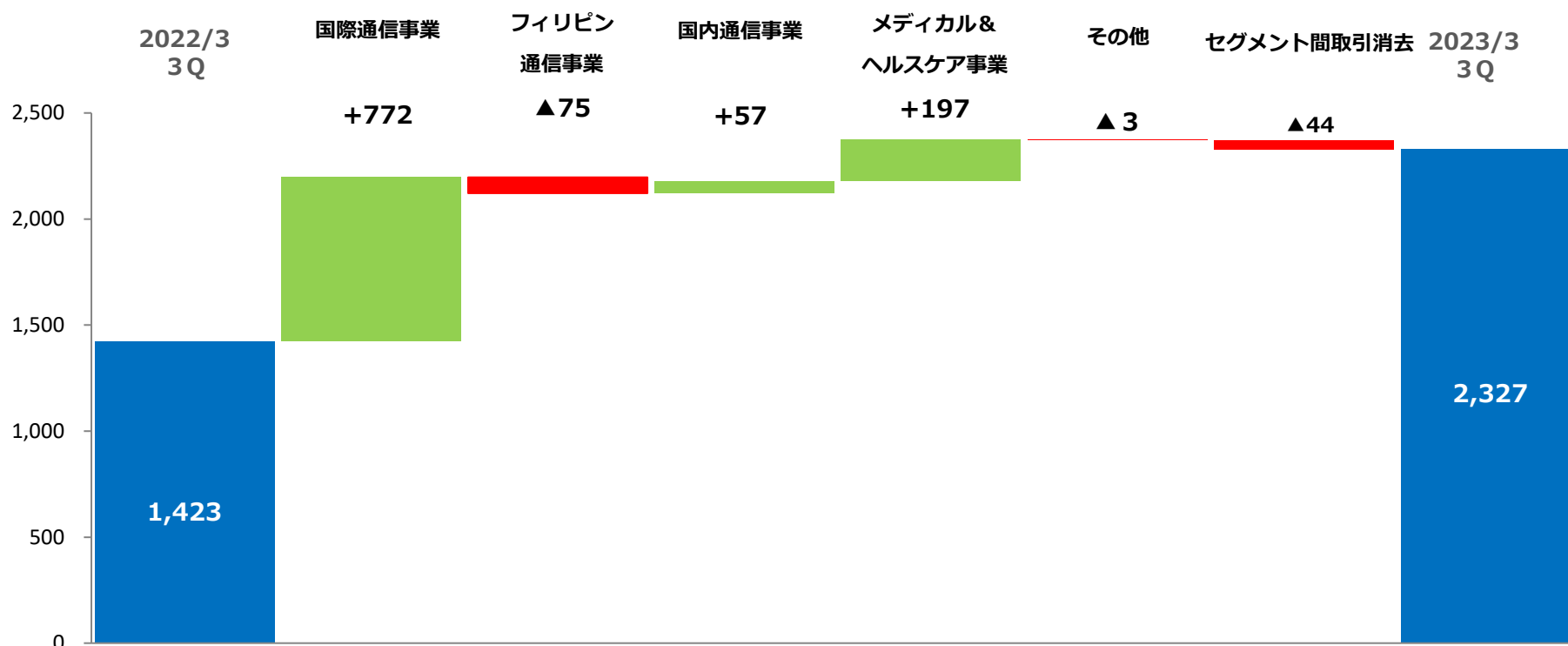
営	業	2022/3	3Q累計	2023/3	3Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売	上	高	21	24	2 (+12.7%)		
営	業	利	益	▲11	▲15	▲3 (-)	
利	益	率	-	-	-		

フィリピンのコールセンターから送金斡旋などの勧誘を実施。

営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が好調に推移し、大幅な増益となる。



連結貸借対照表（サマリー）

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2022年3月期末	2023年3月期3Q	増減		2022年3月期末	2023年3月期3Q	増減
流動資産	12,023	13,695	1,671	流動負債	7,865	10,365	2,500
現金及び預金	5,778	4,440	-1,338	買掛金	1,032	1,202	169
売掛金	2,069	3,460	1,391	借入金	1,845	4,262	2,416
リース投資資産	3,340	3,219	-120	その他	4,986	4,901	-85
その他	834	2,574	1,739	固定負債	1,418	1,137	-281
				長期借入金	1,203	900	-303
				その他	214	237	22
固定資産	6,397	9,256	2,859	負債合計	9,283	11,503	2,219
有形固定資産	3,776	6,347	2,571	純資産	9,136	11,448	2,311
無形固定資産	1,721	2,020	299	株主資本	7,131	8,173	1,042
投資その他資産	899	887	-12	累積包括利益	178	946	768
				新株予約権	191	188	-2
				非支配株主持分	1,635	2,139	503
資産合計	18,420	22,951	4,530	負債・純資産合計	18,420	22,951	4,530

2 | 2023年3月期 業績予想の修正

2023年3月期通期業績予想の修正



(単位：百万円)

	2022/3月期 通期実績	2023/3月期		
		前回（11月）公表	今回公表	前年度比
売上高	10,728	12,000	12,000	11.9%
営業利益	2,456	3,300	3,300	34.4%
経常利益	2,897	3,900	3,300	13.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,888	2,700	2,200	16.5%

通期予想の修正の概要

- 売上高および営業利益は、計画通りの120億円、33億円を見込む。各セグメント間についても進捗に差異はあるものの概ね計画通りに推移。
- 経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、第2四半期連結累計期間には、為替差益740百万円を計上していたものの、円高の進行により為替差益が減少するとともに、海外子会社における外貨建債務の評価においてペソ安が進行したことによる為替差損が増加し、第3四半期連結累計期間には為替差損4百万円を計上したことを反映して計画数値を修正。

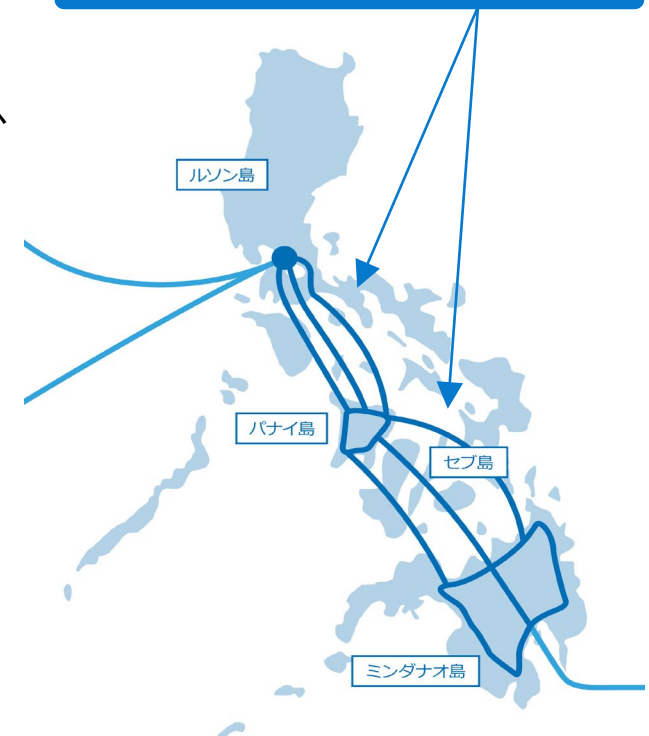
2 | 2023年3月期第3四半期 Topics

2022年7月、当社子会社のInfiniVAN, Inc. は、フィリピンの通信事業者Eastern Telecommunications Philippines, Inc. およびGlobe Telecom, Inc.と共同でフィリピン国内海底ケーブルシステム（Philippine Domestic Submarine Cable Network。以下「PDSCN」という。）の建設を開始し、2022年12月、計画通り第一工期の建設が完了。

2023年4月の完成に向け、第二工期の建設を実施。

- PDSCNは、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内を縦貫する回線で、その工事区間は24区間、ケーブルの長さは約2,500Km、人口カバー率は96%。
- PDSCNと並行して、フィリピン国内基幹回線の建設も進行中。
- 総投資額は、142百万米ドル（原則3社均等）。別途、伝送装置やInfiniVAN単独の陸上部分の費用を合計すると、InfiniVANの投資額合計は約63百万米ドル（約85億円）。
- 今後フィリピンの通信事業者やCATV事業者だけでなく、OTT事業者などとの取引の拡大を図る。

フィリピン国内海底ケーブルシステム（PDSCN）



※イラスト上の回線のルートは、実際のものとは異なります。

メディカル&ヘルスケア事業では、フィリピンの医療インフラの強化を図るために予防医療分野に進出し、4月の開業に向け、準備中。
また、好調なレーシック件数の需要に対応し、オルティガス院の拡張工事を実施するなど、業容の拡大を図っております。

- 2022年6月に人間ドック／健診センターを運営する新会社Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC) をShinagawa Lasik & Aesthetic Center Corporationの子会社として設立し、2023年4月の開業に向け、人間ドック／健診センター「SHINAGAWA DIAGNOSTIC & PREVENTIVE CARE(SDPC)」の開業準備をすすめております。
- レーシック需要の増加に対応するため、オルティガス院の拡張工事を実施。



- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331